

愛知県
精神医療センター
ニュース

児童青年期部門

認定看護師+CERTIFIED NURSE
社会貢献活動を通して現在の思い

INFORMATION

認定看護師 + CERTIFIED NURSE

社会貢献活動を通して現在の思い



永田 秀樹

私が看護学校の非常勤講師をしていた時に、どうして精神疾患患者に偏見があるのか？と生徒がお題を投げたところ、「街中でブツブツ言っている人には近寄らないと親が子供に教育するため自然と偏見が刷り込まれる」「マスメディアの情報に偏見を持ちやすい内容である」「接点がないから理解ができない、わからないから怖い」と様々な返答が聞かれた。偏見は、精神疾患患者の自己肯定感を低くする一つの要因のため、偏見を少なく

することや、自己肯定感を回復しその人らしい生活を送るために、私は仕事以外で何が出来るのかと思う日々が続いていました。この思いと同時期に、趣味であるサッカー（40歳以上シニアサッカー）の全国大会で日本一という称号を手に入れました。スポーツを通して今までに感じたことのない幸福感と感動を味わい、この幸福感和感動を精神疾患患者も体験できれば自己肯定感も回復し、よりよい人生が送れるのではないかと考えました。そこで、私はサッカーというツールを使って地域で暮らす精神疾患患者と関わり、世間の偏見を少なくする活動や自己肯定感の回復を促す社会貢献活動をしようと考えました。

2016年11月よりソーシャルフットボール（精神障害者のサッカー・フットサル）に関わり、2017年のソーシャルフットボール全国大会では私が監督するチームが全国3位となりました。しかし、ほとんどのメンバーは「日本一になりたい、もっと上手になりたい」と話し、現状に満足はしませんでした。統合失調症、うつ病、発達障害など様々な疾病と生活のしづらさがあるなか、コミュニケーションの行き違いでメンバー間の衝突やトラブルも時々あります。しかし、長期にわたり逃げ出すメンバーはいません。それは、日本一という目標を持ちながらも各自が自己の課題や問題を解決し、自分を変えたい、成長したいと考えているからと実感しています。

2019年も私が監督をするソーシャルフットボールチームは東海代表になり、9月に全国大会に挑みます。目標はもちろん日本一です。最後に、社会貢献活動という目的でソーシャルフットボールに参加していますが、3年間も活動していると社会貢献活動の一つと感じています。3年前は無職であったメンバーは、現在はほとんどが就職し、大学生になったメンバーもいます。メンバーもソーシャルフットボールを居場所の一つとして活用し、日本一という目標を掲げながらも、各個人がそれぞれの人生を歩んでいます。また、チームスポーツを通して目標に向かって努力することは、コミュニケーション能力の向上、自己肯定感の向上につながっていると、この3年間を通して実感しています。

INFORMATION

令和元年度 愛知県精神医療センター 公開講座のお知らせ

お申し込み
不要

場 所：愛知県精神医療センター 外来北棟2階 大会議室（11/16は城山ホール）

時 間：10時から11時30分（9時30分から受付）

※参加申し込み不要

問い合わせ先：事務部総務グループ TEL 052-763-1511 内線 607

※参加費無料



第1回目の様子

【第1回】7月27日(土)

家庭でできる災害対策
～あなたにできる大切な人を守る ところの支援～平澤克己 医師
宮澤佳久 看護師

※38名の参加がありました。

【第2回】9月7日(土)

児童精神科って
何しているの？堀 未来 医師
牧 雪乃 作業療法士
大河原 健一 看護師

【第3回】11月16日(土)

みんなで考えよう精神に
障害のある方の暮らし大橋 信彦 精神保健福祉士
櫻井 早苗 精神保健福祉士
佐野 隆司 精神保健福祉士
清水 玲那 精神保健福祉士

【第4回】1月18日(土)

精神科作業療法って
何だろう

牧 雪乃 作業療法士

【第5回】3月14日(土)

大人の発達障害と結婚

大村 豊 医師
三輪 なつみ 心理士

～皆様どうぞお気軽にご参加ください～

病院文化祭の
お知らせ

これまで平日に開催してきた文化祭を、より多くの方にご参加いただけるよう、今年度は、11月16日(土)に開催することといたしました。病院スタッフによるバンド演奏、患者さん有志による合唱などの演芸会やバザーも行います。近隣の皆様、ぜひ病院文化祭へお越しください。お待ちしております。



愛知県精神医療センター
Aichi Psychiatric Medical Center

〒464-0031 名古屋市千種区徳川山町 4-1-7
TEL 052-763-1511
http://www.pref.aichi.jp/seishiniryo-center/



● 児童外来



児童外来は、本人が受診できる乳児から中学3年生までを対象とした専門外来です。



訪問看護は未成年の方で当センターに通院中の方を対象に、外来の児童担当看護師がお宅や施設などに訪問し看護をしています。ご本人だけではなく、ご本人を支えているご家族や周囲の方にも耳を傾け、寄り添う看護を提供するよう心がけています。

看護師 前田珠里

制度説明や支援導入のため、ご本人やご家族と面談を行っています。協同してご家庭を訪問し、必要に応じて関係機関と連携を図っています。

精神保健福祉士 大橋信彦

病棟プログラム担当者



SST 担当
心理士
三輪なつみ

集団の中で居場所を感じてもらいながら、対人スキルや感情コントロールの方法を学ぶプログラムです。自分の気持ちを観察し、コントロールする練習として、自分の気持ちを色や絵で表現するワークシートや、呼吸法などのリラクセーションも取り入れています。



作業療法担当
作業療法士
川口尚子

作業療法（リハビリテーション）では、創作活動、軽スポーツ、料理、レクリエーションといった活動から子どもさんの交流体験を積み、社会参加、社会復帰を支援していきます。また作業活動を通して、自己表現の場としての活用や不安の強い子どもさんが安心して過ごせる環境づくりを支援しています。



社会制度担当
精神保健福祉士
森千亜紀

その人それぞれの生活がある中で、日常生活で役立つ制度や福祉サービス等について具体的にどんなものがあるかを伝えています。これらを通して御本人の今後の生活に役立てていただきたいと思います。



ねんど担当
心理士
森晶仁

かたちのないねんど、でも、どんなかたちにもなるねんど。にぎってもいいし、まるめてもいいし、たたいてもいい。なにかをつくってもいいし、なにもつくらなくてもいい。きにいらなければ、こわしてもいい。おしゃべりしてもいいし、ねむっていてもいい。そんな、自由表現の場です。

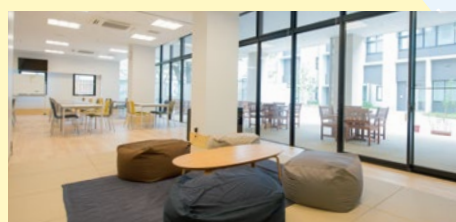
プログラム

	月	火	水	木	金
AM		SST		社会制度	
PM			作業療法		ねんど

*学習プログラムは、2回/週行っています

● 児童青年期デイケア

未成年の方が対象です。一人ずつ目標を立てて、一人ひとりの発達、生活状況に応じたサポートを行っています。



看護師 加藤久美
作業療法士 牧雪乃
心理士 中川麻由子

児童青年期デイケアは 2018 年 4 月に開所。外来の方で主に中・高生が参加しています。日中の生活の場として「ゆったり」と過ごせる活動「いきいき」と体を動かす活動「学習」で静かに勉強などに取り組める活動を行っています。

1日のスケジュール

8:45	開所
9:30	朝の会
10:00~11:30	プログラム
11:45	昼食
13:15	昼の会
13:30~15:00	プログラム
15:15	終わりの会
16:00	閉所



中庭

● 児童青年期病棟

児童青年期病棟は、未成年の方が対象で、主に小・中学生の入院治療を行っています。入院中であっても小・中学生は、大府特別支援学校の訪問教育を利用し、学校教育を受けることができます。

入院中は、病棟の日課に沿って生活を送ります。病棟行事や様々なプログラムを通して一緒に学び、遊ぶ体験をともにすることで、成長へと繋げていくように支援しています。



訪問教室



テラス



看護師長
野田ゆみ
看護副師長
登坂美穂

病棟は「治療の場」であるとともに、「育てる場」でもあります。入院する子どもたちには、それぞれの入院に対する目標や課題があります。一緒に課題に取り組み、目標が達成できるように、受け持ち看護師が中心となりチームで支援を行っています。



医師
大村豊
堀未来
鈴木佳乃子

児童病棟は 3 名の医師で担当しています。様々な年齢、様々な疾患のお子さんが入院されますので、個々の状態に合わせて、多職種で協力しながら治療を行っています。スムーズに地域生活に移行できるよう、学校や地域支援者とのケア会議も積極的に行っています。

病院の全面改築に伴い児童青年期部門は、病棟・外来・デイケアの3つの機能を持ち独立しました。医師を中心とした看護師・臨床心理士・精神保健福祉士・作業療法士などが継続してチーム医療を提供しています。

児童青年期部門